

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成
-----------	--

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2. 日々の教育活動をおとして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3. 生徒個々の希望と適性に応じた進路の実現をはかる。		C 不十分である。(4割以上)
	4. 笛吹市との包括連携を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。		D 達成できなかった。(4割未満)
	5. 教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う。		

評 価	4	良くてきている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和6年2月1日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒への教育の質を保証する(生徒理解に努めながら学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫)	◎学び続ける教員による授業の充実を図る ・山梨スタンダードに基づいた授業実践により「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善に取り組む。(ICTの利活用を行う) ・相互授業参観や授業研究、教員研修を通じて、教員の授業力向上に努める。 ・やまなし教員育成指標に基づき常に学び続けることを意識し、自己研鑽に努める。	・授業アンケート ・ICTの活用状況
		◎生徒の家庭学習の推進を図る ・生徒が自己の生活を見つめ、主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、ICT学習支援ツールと今未来手帳の活用に取り組む。	・Classiや今未来手帳の活用状況
		◎個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る ・教科横断型STEAM型の新教科を設定し、生徒に言語能力、問題発見・解決能力など学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指す。 ・4学科の特徴を生かし、生徒一人一人に応じた学びが実現できる教科やカリキュラム開発を行う。	・相互授業参観の状況 ・カリキュラムデザインの進捗状況
2	生徒が安心安全な学校生活を送ることができる学習環境をつくる(良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫)	◎いじめの未然防止に努める ・いじめ調査に併せ、生活実態の把握に努め、予防的な指導の充実を図る。	・教職員間の情報共有 ・保護者との情報共有と情報発信
		◎担任、副担任の連携・協力によるホームルーム指導を実施するとともに学校全体で情報共有を図り、組織としての適切な対応に努める ・生徒一人一人が抱える課題に着目し、個性を認め、個別の発達を支援するホームルーム活動を行う。 ・学校全体で情報を共有する体制を整備し、組織的な対応を行う。	・登校指導の実施 ・学年・学科集会など様々な場面での指導
		◎生徒の安心安全な学校生活を確保する ・授業、クラブ活動、登下校など学校生活全般における生徒の安心安全を確保する。	・学校生活の充実感 ・教育相談の充実 ・危機管理の徹底
3	進路指導を充実させ、生徒の進路実現を図る(各々の適性に応じた進路を実現)	◎習熟クラス、少人数授業等編成目標に応じた学習指導を行い、進路実現を図る	・相互授業参観の状況 ・指導と評価の一体化
		◎生徒、保護者の意向を調査・把握し、進路希望を実現するための具体的な手立てを講じる ・生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	・二者懇談・三者懇談の実施状況 ・各種便り、HP等の充実
		◎課外授業や課外指導の充実を図る ・土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。	・多様な学習機会の提供
		◎進路行事や総合的な探究の時間等を通してキャリア教育の体系化を図る ・「総合的な探究の時間」「課題研究」「FFグローカル」での探究活動を通して、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	・計画的な進路ガイダンスの実施 ・地域社会への関心度
4	これからの時代を生きる生徒に必要な資質・能力を育成する。(具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む)	◎生徒が地域の課題発見・解決に主体的に関わり、社会参画できる実践的な活動を行い成就感や自己肯定感を高める	・総合的な探究の時間の充実 ・学校運営協議会との連携による活動
		◎学校行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する	・生徒会活動の充実 ・広報活動の充実 ・笛吹市との包括連携による活動
5	教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う	◎業務の平準化を図る ・会議等の効率化、行事・分掌の見直しを行う。	・会議や行事の精選
		◎部活指導の適正化を推進する ・年間指導計画に基づく、適正な部活指導を実践する。	・部活動の実施状況と活性化

学校関係者評価		
実施日 (令和7年2月12日)		
評価	意見・要望等	
3	3	・目標達成に向けて、教職員一丸となった努力がなされていることが感じられる。「FFグローカル」については、実施にあたって教員間で入念な打ち合わせを行い、特に到達度、「何ができたら目標達成とするのか」については明確なコンセンサスを取っておくことが望まれる。 ・今年度、学校評価において定量化を行ったことは、実際の授業をの効果を検証していく上で、効果があったと考える。また、ICTなどの取り組みについては、一般的なPCを用いた調査や、生成AIを用いた調査に留まらない、生徒の豊かな創造性やこれまでにない課題解決の方法を引き出す必要性があるのではないか。また、学校評価アンケートの増減やコメントに振り回されず、長期的な視点で評価していく体制が必要。 ・今年度は「FFG」の授業において、地域コーディネーターに週3回来ていただいていると聞いている。笛吹高校の生徒は、様々な業種の大人に接する機会があるので、生徒にたちに様々な芽生えがある。この先の将来について大きく変わっていくのではないかとと思われる。色々な企業から話を聞いてもらいたい。また、4学科あることの利点を生かした授業が行われていくと笛吹高校のオリジナルな面が生かされるのではないかと。
		・第2回学校運営協議会において、部活動に熱心に取り組んでいる生徒と話をした。人間関係づくりで学校に取り組んでほしいことを聞くと、道德の時間が少ないとの指摘があった。担任の先生以外にと相談できる人が欲しい、または相談できる場があるとうい。 ・目標達成に向けて、教職員が出来る得る最善の努力がなされていることが感じられる。今後も生徒だけでなく保護者とも密なコミュニケーションをとり、状況の早期把握と改善に努めていただきたい。 ・いじめの未然防止については、生徒も保護者も肯定的な意見が増えている。このことについては学校の体制が良くなってきている結果だといえる。今後も、生徒や保護者が相談しやすい環境づくりや道德の授業などの充実を行い、いじめが未然に防止される学校であってほしい。
		・目標達成に向けて、教職員一丸となった努力がなされていることが感じられる。土曜講座や長期休業課外等は、多くの時間を割いて学習時間を設けることに加え、その時間の中で高い学習効果が得られるための効率の良い学習指導法の開発と実践に向けて、努力していくことが望まれる。 ・生徒にとって基礎的。基本的な知識を身に付けることは、社会に出た後非常に重要となってくる。今回の年度末評価では、進路に関する項目の肯定的な意見が増えているので、この体制を維持してほしい。また、生徒にとって様々な経験をする機会が、進路を考える上では大切だと思うので、地域の方々が職業についてお話しする機会などを継続してほしい。生徒の姿を見ながら、地域の大人が本気になって子どもに関わることの重要性を感じている。また、事業が単年度になるのではなく、1年後、3年後に続いていける、持続可能な取り組みを作っていただきたい。
4	4	・農業の実習で将来を目指す皆さんが、海外での販売の状況を見るのがいい勉強である。「百聞は一見に如かず」である。このような事業は生徒の見識を広げるよい機会でもあるので、これからも継続してほしい。 ・笛吹高等学校の良い特徴の一つは、キャリア教育が充実していることだと思う。現在のように今後も生徒一人一人について、将来何になりたいのか、そのためには何をすべきなのかを共に考える教育を継続して実践していただきたい。
		・目標達成に向けて、教職員一丸となった努力がなされていることが感じられる。今後も仕事効率化に努めるとともに、新規な取り組みを行う場合は、それと合わせて、これまでの取り組みの廃止・省略・簡易化を実施することで、仕事を増やしてそれに追いつけないような努力を続けていくことが望まれる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。